

◎ 連合会・労協Gだより

労協Gが果してきた役割りは、改めて言うまでもなく大変大きなものであったが、94年協同集会の大成功に見られる諸運動の発展は、グループの位置づけの抜本的な見直しを迫ることになった。

日本社会の真の変革を求めて、環境、資源、農業、高齢者、教育、文化などあらゆる分野での、仕事おこし・地域おこしにとりくむ人たちの運動と事業が、たくましく成長、発展をとげ、それぞれがネット・ワークを求めており、今、我々に、必要なことは、「非営利組織」「新しい協同組合」の大連合へと、より高く、より濃密な人間関係の構築を課題とした。それは、グループ結成の初心でもあった。いま、労協Gは、これまでの歩みを総括し、これからの方針を抜本的に確立する検討をすすめている。これまで、労協運動の理念には共感できるが、全日自労の闘いの流れをくむ連合会は、一線を画すことで幅が広がると考えたことや、グループの結成と言いながら誰かがやってくれるのではというもたれ合いを克服し、自らの足腰をきたえ、自力を強め、交流と実践を通じて、

◎ センター事業団だより

今年も新しい事務局員候補が入ってきた。昨年に比べて12人と少ない。特徴的なのはとても素直に研修に取り組んでいることだ。例年通り、入団式後に合宿による研修会を3泊でおこなった。ここまでセンター事業団を作ってきた先輩達の話聞くことが最初の中身である。延べ13人ぐらいの話をこの数日の間に聞かされたのだからなかなか大変だ。この中でセンター事業団の歴史を知ることになるし、何よりも「先輩達」の人となりに触れることが大切だと思っている。合宿後は配属予定の事業所にて仕事に携わることになる。いわゆるOJT研修である。概ね組合員からは新人らしい素直さを好感を持って迎えられている。4月から新しく始まった仕事で四苦八苦している事業所がうれしい悲鳴を上げている。盛岡赤十字病院では全国の事業所から応援が入ってこの4月を乗り

普遍的な価値や原則を確立していくことが可能だし、そこに飛躍発展の鍵があったことが、2年半の貴重な経験で明らかになってきている。

労協連は、グループの構成事業体に、大連合の時代に照応する連合会をつくるために、まず、連合会に加盟し、その上で力を合わせていくことを提起した。早速、パラマウント、C&C加盟をきめ、エコテックも検討に入った。

5月の連合会総会では、無茶々園、つげの協同組合準備会（仮称）の加盟も実現する。阪神大震災を契機として、建設労働者協同組合が設立され、すでにながれきの撤去、家屋の補修、建設がはじまっている。高齢協も本格的にスタートし、三重は生協法人格の取得のメドがついた。

連合会は、一気に、生産、建設、農業、教育の分野に広がることとなる。

1995年は、国の内外、あらゆる分野での節目の年だが、労協と「新しい協同組合」運動にとっても大きな節目をきざむこととなってきた。

中田 宗一郎（労協連合会・専務理事）

きった。病院の施設も立派だが、それ以上に「院内感染」に対する姿勢に大きく励まされるものがある。モップの洗濯や乾燥では新たな施設の造営も行っていたようだ。「安心・安全な病院を作りたい」という私たちの基本姿勢が病院にも通じた1場面として本当に嬉しく思っている。4月5日は会期のまとめと95年度からはじまる第2次中期計画づくりに忙しい。本部と事業所・ブロックとの事業計画会議（ヒヤリング）では当然予算案にかんする検討もおこなわれる。数字を前にとすると現実がせまりなかなか積極的になれないところであるが、運動と事業の前進の中では予期せぬ飛躍もある。5月第10回総代会で第2次中期計画が決定される。これまで以上に様々な新しい取組に積極的に挑戦しなければならないと思う。

坂林 哲雄（労協センター事業団・事務局長）